

今なぜプログラミングを学ぶのか？

「IT企業のプロが教える、教育の「未来」
プログラミング教育が小学校で必修化となった現在。なぜプログラミング教育が必要なのか、今後の教育の在り方について注目の子供プログラミングスクールを運営するgaプログラミングCEO佐藤光明さんにお話を伺いました。

子供プログラミングスクールを始めたきっかけを教えてください。

文部科学省が2020年から小学校、2021年から中学校でプログラミング教育の必須化を発表した事がきっかけです。先進国の中では、日本のプログラミング教育は遅れをとっています。例えば、韓国では2007年から選択科目として初等教育にプログラミング教育を導入して、先駆的な取り組みが続けています。日本と比べて13年以



Profile

CEO 佐藤光明

大阪府茨木市出身。立命館大学卒業。webディレクターとして大阪弁護士会や兵庫県庁など大型案件に携わり、2008年には全国初の弁護士無料検索サイトを立ち上げる。2018年に大阪にgaプログラミングを開校し、現在関西に8校を展開。オンラインスクールも開校中。

上も前にですよ。そういった経緯もあり、私たちはWEBシステムを開発しているノウハウを持っているので、プログラミングスクールができてしまった。そこで子どもたちに興味をもってもらうために、ロボット、ゲーム、動画の3つのコースを備えたスクールを開校しました。

小学生でプログラミング教育がスタートして1年が経ちますがどう思われますか？

プログラミングを教える環境がまだ整っていない印象です。教えることのできる先生がいなという問題に直面していると思います。大阪の公立小学校から教師にプログラミングを教えに来てほしいと電話があった程です。文部科学省の発表でもまずプログラミングの思考から学ぶとしているので、具体的に教える方法を教師がわかっているかと思えます。教師からすると国から何の研修もなくいきなり丸投げされるような印象ですね。もっと学校の現場でIT教育が普及しなければ、この国は後れをとるばかりだと思います。明らかに日本はIT後進国です。私は小学生高学年の子供がいるのですが、学校でしているプログラミングは、弊社の年長の5歳児がしている内容です。

教室のスタイルについて教えてください。

大人数での講義式の進め方についていけない生徒は、分からないまま放置状態になっていく可能性があり。生徒のやる気をしっかりとキャッチするために、私たちのスクールは、1人の講師が担当する生徒を4、5人に限定した半個別式少人数制授業で、4歳から中学生まで、一人ひとりに寄り添う指導を徹底しています。

gaプログラミングスクールの生徒はどのようにプログラミングを学んでいますか？

私たちのスクールは自由な学びを大切にしています。指導力リキラムはありますが、それを自由に超えて構いません。以前、生徒がインベーダーゲームやもぐらたたきゲームを制作したことがありました。大人なら当然知っている懐かしいゲームですが、現代の子どもたちがそれを自分で考え、完成させたことには驚かされましたね。興味と好奇心が学習に深みを与えた瞬間を目の当たりにできたことは講師である私たち自身の喜びにもなりました。

あらゆるものが多様化している現代では、親御さんも自分の子どもにも何が適しているのか迷ってしまうかもしれません。子どもたちの人生を広げるために、多様な学びの環境を準備し続けたいと思っています。

最後にメッセージをお願いします。

プログラミングとは一言でいうとコンピューターにお願いする事なんです。

それはリモコンや冷蔵庫、信号機、エレベーター、車など私たちの生活に身近に触れているものです。日本はIT後進国と言われています。人工知能やアプリケーションの開発に使用できるパイソンというプログラミング言語でさえ1991年には開発されています。日本人パイソンを使いこなせるクリエイターが少ないのが現状です。

近い将来AI（人工知能）化が進むと、ロボットが仕事をしてくれれます。但し人間はロボットに使われる存在ではなく、ロボットを創り出す側であり、ロボットを使う側でなければなりません。子どもたちにとってプログラミング教育とは、これからの時代を生き抜く力を鍛える役割であると思います。gaプログラミングスクールでは、子供達にプログラミングの楽しさを伝えながら、プログラミングを行う上で必要な論理的思考や問題解決能力を高めていきます。プログラミング教育とは時代を生き抜く力を備えるための準備であり、私たちのスクールが少しは社会貢献になっているのではないかと思います。